



西尾いきものふれあいの里だより

9月号

2026.9.1 発行

さとやま

9月の里といきもの



今年の8月は前半に気温の高い日が続き、西尾市でも40℃の酷暑日に迫る気温になりました。そんな里でも、9月になれば気温も落ち着き、秋の気配を感じるようになることでしょう。下旬になると、あちこちでヒガンバナ科の多年草、**ヒガンバナ**の花がみられるようになります。

また、トンボの里などの半日蔭で湿り気のあるところでは、タデ科の多年草、**ミズヒキ**が花をつけています。

花穂が、祝儀などにかける「水引」に似ていることから名が付けました。花は直径2～3mmで、花卉はありません。花卉のように見えるのはがく片で、上側が赤く、下側が白く見えます。これも名の由来です。雄しべは8本、雌しべは1本あります。午前にはがく片が開き、午後は閉じて見えなくなってしまうです。

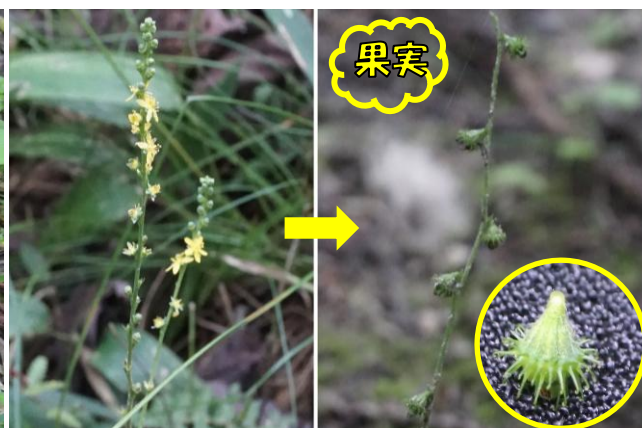
がく片が白いものをギンミズヒキと呼び、里でも見つかります。



ミズヒキ



ギンミズヒキ



ビオトープ上の池やトンボの里、万灯山エリアでは、**ヒメキンミズヒキ**の花が見られます。

こちらはバラ科の多年草です。花穂がミズヒキに似て、金色の花をつけることが、名の由来です。花は色鮮やかで、星形のかわいい姿ですが、果実はかぎ状の棘があり、衣服などにくっつく、「ひっつき虫」になります。

数年前までは、小草池の道の私有地側に、少し大きな**キンミズヒキ**の花が見つかりました。最近では、ヒメキンミズヒキと違い、先端が細く尖る葉はありますが花が見つかりません。こちらの方が、日当たりを好み、花が密につきます。

こんな「水引草」たちを探してみてください。



9月はいかないきものも見られます

夏から秋にかけて、里にはいろいろなマメ科の花が咲きます。マメ科の花は、特徴的な姿をしているのですぐ見分けることができます

里山エリアや万灯山エリアの日当たりのよいところでは**ツルマメ**、日当たりの悪いところでは**ヤブマメ**の花が咲きます。どちらも1年草です。

ツルマメは、ダイズの原種だと言われています。豆の若い鞘は、まるで小さな枝豆のように茹でて食べることができるそうです。また、ダイズの品種改良にも利用されます。

ヤブマメは、地上にできる鞘の中には、うずら豆によく似た種子ができます。また、地下にできる咲かない花、閉鎖花（咲かない花）の種子は大きくて食べられ、アイヌ人は、集めて食べていたそうです。

ビオトープ上の池付近や、小草池へ向かう道ののり面では、耳のような形の**ノアズキ**の花がたくさん見られます。ノアズキは花がアズキに似ていますが、アズキの原種ではありません。豆は一般的に食用には向かない（おいしくない）ようです。



秋の七草の葛（くず）や、萩（はぎ）もマメ科です。

クズは多年草で、見上げると里のあちこちで花が見られます。つる植物でよく茂るので、厄介者扱いですが、この根からとったデンプンは「くず粉」と呼ばれ利用されていました。

図鑑では、「ハギ」という名の植物はありません。七草の萩は、主に万灯山山頂などに見られる**マルバハギ**や、**ヤマハギ**などの総称です。「草」と呼ばれていますが木本です。

花が赤くない萩**ハイメドハギ**は多年草で、万灯山山頂にたくさん見られます。他にも「萩」と呼ばれるマメ科の植物はたくさんあります。



少し涼しい風が感じられるようになると、あちこちで鮮やかな青い**ツユクサ**の花が群生して咲き始めます。ツユクサ科の1年草で、花期は6～9月ということですが、暑さが厳しい頃にはあまり見かけません。朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想されることから、名がついたと言われています。

小草池の辺りでは、**マルバツユクサ**という南方系の外来種のツユクサがたくさん見られます。ツユクサに比べて、花弁が小さく、葉が丸みを帯びて縁が波打っていることで、見分けることができます。こちらは、夏の暑いときにも花が咲いているのを見かけます。また、地下に閉鎖花をつけることもあり、繁殖力が旺盛です。

また、里のあちこちで、花穂が狐の尾のようなキツネノマゴ科の年草、**キツネノマゴ**も咲き始めます。花穂の下から上に順に咲いていき花を長く見られます。



胃の薬になる**ゲンノショウコ**は、フウロウソウ科の多年草で、ビオトープ上の池やセンター付近に赤花が、中央広場から上の道辺りに白花がみつかります。富士川あたりを境に東日本に白花が多く、西日本に赤花が多く分布します。

ハンノキ広場から、トンボの里付近では、葉柄が筍の皮のように見える、セリ科の多年草、**ノダケ**の花が咲いています。

万灯山エリアやビオトープ上の池付近では、キク科の多年草、**ガンクビソウ**が花をつけます。黄色い、花弁のない筒状花（とうじょうか）だけの地味な花で、先が少し曲がる姿が、キセルの雁首に似ているのが名の由来です。

こんな、秋のいきものを探して里を散策してみましょう。

8月の行事紹介



「里山の小川でいきものを探そう」を8月2日（日）に開催しました。里山エリアの棚田の横を流れる小さな小川に入り、どんな生き物がいるか探しました。川岸の下流側にタモ網を入れ、上流側から足で草をガサガサと動かし、魚を追い込みました。カワムツ、カワヨシノボリ、ヌマエビ、サワガニ、ヤゴなど多くの生きものを捕まえることができました。その後、捕まえた魚などを観察し特性などを学びました。ウシガエルにもさわられたよ！

9月の行事予定

6日（日）	楽しい絵手紙	20名	AM 9:30～11:30	市川百合子
-------	--------	-----	---------------	-------

内容：白いハガキからはみ出すくらいに、絵を大きく書きます。野原のかわいい花や動物・魚たちを、心をこめて描くときと送る相手に喜んで頂けます。（材料費：100円）

20日（日）	草木染～植物から色をいただく～	20名	AM 9:30～11:30	磯貝はるみ
--------	-----------------	-----	---------------	-------

内容：日本で昔から行われてきた草木染。身近な草木を用いて、キッチンでもできる草木染めにチャレンジしてみましょう。（材料費：300円）

10月の行事予定

4日（日）	棚田でお米づくりしようⅡ（稲刈）	60名	AM 9:30～11:30	当園職員
18日（日）	棚田でお米づくりしようⅢ（脱穀）	60名	AM 9:30～11:30	当園職員

内容：＜稲刈＞実った稲はカマを使って刈取りし、乾燥させるために束ねた稲を「はざ」に掛けます。はざ掛けは、太陽の光と自然な風で乾燥させることで、甘くて美味しいお米になります。＜脱穀＞はざ掛けから天日干しされた稲を選び、稲から籾を取り除く作業を行います。春の田植えに始まり、秋の稲刈、脱穀の農作業を経験することで、「お米」の大切さを学びます。

※～棚田でお米を作ろうⅠ～Ⅲの一連の3回の講座は、参加特典として「お米」をプレゼントします。お米の量は、受講回数に応じて配付します！また、雨天等で中止した場合は、1週間後の予備日に開催します。

〔予備日：4日⇒11日・18日⇒25日〕

17日（土）	秋のきのこ観察会	20名	AM 9:30～11:30	石川まゆみ
--------	----------	-----	---------------	-------

内容：森の妖精のようなかわいいキノコたちを西尾の里山で探してみませんか？

食用、不食、毒キノコ、あなたは何種類みつかることができるかな？

- ◇ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が4名以下の場合は開講しません。
- ◇ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。小さいお子さまには、目を配るのに十分な保護者の同伴をしてください。
- ◇ 当日の天候により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、参加費は無料ですが、講座により材料費は実費を申し受けます。〔講師に直接払う〕
- ◇ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

- ◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266
- ◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始〔12/28～1/4〕 ◆発行 西尾市環境部 環境保全課